

[大会挨拶]

## 第4回情報システム学会・全国大会／研究発表大会

## 大会委員長挨拶

安西 祐一郎

大会委員長を務めております安西でございます。昨日、また今日、この第4回の情報システム学会によるお越しくございました。情報システム学会につきましては、私は名前としては今回の大会委員長になっておりますが、大会実行委員の方々、また北城会長をはじめとするこの学会幹部の皆さま、関係者の皆さまのご尽力でこの大会が開かれたので、ぜひ皆さまには有意義にお過ごしいただければと思っております。

なぜ大会委員長をしろと言われたのかといいますと、これはやはり慶應義塾の塾長を務めておりまして、私自身が情報関係のことをずっとやってきたということがあるかと思えます。今年が慶應義塾のちょうど創立150年の年に当たっております。1858年（安政5年）に福沢諭吉が塾を開きましてから、2008年、今年でちょうど150年目に当たります。日本の大学の中でも古い歴史を持った大学として、幕末から明治にかけて、福沢諭吉とその門下生が封建制度から日本の近代を作り出していったその先駆けになりました。

今の時代を我々は考えてみますと、ITの世界はもちろんでありますが、先がなかなか見えない。特に国際金融市場の混乱、あるいは環境問題、いろいろなことがグローバルな課題として取り上げられてはおりますが、それをどう

やって解決していったらいいのかということがなかなか見えない時代であります。

ちょうど今、NHKの大河ドラマで“篤姫”というのをやっております、ご覧になる方もおありになるかもしれません。学生さんもおられますし、私もテレビを見る時間はなかなかないのですが、あのNHKの大河ドラマの“篤姫”というのは、ちょうど慶應義塾ができました安政年間から慶応年間、今度の日曜で最終回かとも思いますが、ちょうどその時代をやっております。薩摩、長州、それから京都、あるいは江戸等々入り乱れて、開国派と尊皇攘夷が入り乱れての時代でありました。大河ドラマはいつまで見ても学問のことはなかなか出てきませんが、あの時代に洋学の勉強を始めた一握りの人たちがおりまして、それが福沢諭吉とその門下生でした。

それから150年がたちまして、別に慶應の歴史を語りたわけではないのですが、今の時代こそ、やはりこれからの時代に向けて、特に幕末のことを考えてみれば今の時代の方がまだまだ日本にとっては安定していると言えるかと思えます。あのころは暗殺が横行した時代でありまして、あのころに新しい世の中を開いていくというのは並大抵のことではなかったと思えます。これからの時代、特にグローバリズムの潮流というのは、光と影の部分があります。人、もの、またお金、それから情報が国境を越えて、間断なく大変なスピードでもってお互いに影響し合う時代がグローバリズム、グローバル化の時代だと認識しております。特にITの分野、産業界にかかる期待というのは、

Yuichiro Anzai

慶應義塾塾長

President, Keio University

[大会挨拶] 2009年4月29日受付

© 情報システム学会

今、経済の状況が 100 年に一度と言われる大変な状況ですが、だからこそ IT の産業界、それからまた大学、学生さんもそうですが IT の人材が、本当に養成される時代になりました。

やはり、効果的に問題を発見してそれを解決していくというのは、企業でも社会でも、あるいはもちろん大学でも求められることですが、今までの特に戦後何十年かの堆積が、効果的に物事を見つけ出して解決していくことを阻んでいるように思われてなりません。これは、今、慶應義塾でも 150 年の記念授業を 10 年にわたって展開しております、そういう中でもって IT のシステム等々もいろいろに考えるところ、また企画するところがあるのですが、慶應義塾といえども、これまでにたまった堆積というのがありまして、それを皮を剥ぐように剥いで、IT ソリューションといいたましようか、そういうことを新しくやっていくのは、IT のシステムというのはなかなか一度入ってしまうと、それを明日から新しくするというわけにはいきませんので、それを連続性を持って、しかも新しいものに替えていく設計と企画、それから運営のプロセスというのは、そんなに簡単ではありません。

しかし、今申し上げたように、これからの時代を考えますと、そういった活動、また仕事、それからそういう活動を担う人材が本当に必要とされる時代だと思います。これは日本の中だけではなく、北城会長は日本 IBM、またアジアの IBM 等々においてグローバルに活躍してこられた方でありますので、これからの時代には、特に IT の分野というのは国境がそれほどないので、国境を越えた、今申しました光と影の部分もあるグローバルイズムの潮流の中でもって、日本の情報システムの産業界、それから大学、それから若い人たちがもっともって力を持っていかなければいけない、努力していかなければいけない。私も、その末端にいる人間として、心からそう思っております。

いずれにいたしましても、情報システム学会は、情報処理、また情報システムの問題について、特に社会の非常に複雑な、企業との非常に複雑な事柄を含む課題にアタックすべき、そう

いう学会だと私は思っております。この情報システム学会が第 4 回になりました。大会は第 4 回でございますが、今後も発展を続けて、これからの日本と、それからグローバルイズムの潮流が、ある意味で荒れ狂っております世界に向けて発信していただけますようお願いを申し上げますとともに、あらためて皆さまに、今日昨日いらしていただいておりますことを感謝申し上げますと思います。もう一つは、このホールは藤原洋記念ホールと申しますが、藤原洋さんというインターネット総合研究所所長で IT 業界、IT の世界の方からのご寄付によるものでございます。ぜひ皆さんも、慶應にこういうものを寄付してほしいというわけでは、それもあります（笑）、そういうわけではありませんが、これから若い人たちも含めて、IT の世界をもっともって広げていただくようお願いを申し上げます、感謝を申し上げます、ご挨拶に代えさせていただきます。どうもありがとうございました（拍手）。